

令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会 第93回日本高等学校選手権水泳競技大会（水球）

水球競技戦評

期日：令和7年8月18日（月）
会場：山口きらら博記念公園水泳プール

ゲームNo.

9

帽子の色 白

帽子の色 青

前橋商業

1 2

3	－	2
3	－	1
2	－	6
4	－	2
PSO		

大垣東

1 1

審判1： 吉田 涼吾

審判2： 大坂 淳

戦 評

令和7年度全国高等学校総合体育大会 兼 第93回日本高等学校選手権水泳競技大会（水球）は、8月18日（月）、山口県きらら博記念水泳プールで大会2日目を迎えた。ゲーム9は、関東の代表として地力の高い布陣を誇る前橋商業高等学校（白帽）と、東海地区から勝ち上がってきた大垣東高等学校（青帽）の一戦。過去の全国大会では何度も顔を合わせてきた両校が、全国の舞台で改めて力をぶつけ合う試合となった。

第1ピリオドは、前橋商業の④齋藤がカウンターから鋭いミドルシュートを決め先制点を奪うと、⑦星、⑤椎名も続き立ち上がりからリズムを掴んだ。一方の大垣東も⑫野村のペナルティシュート、⑨臼井の持ち込み得点で応戦し、互角の展開を演出。スコアは3－2と前橋商業が一歩リードする形で終えた。

続く第2ピリオドでは、前橋商業のエース⑥前田が冷静にゴールキーパーの動きを見極め追加点を挙げると、⑤椎名や②関口を起点に得点を重ね、攻撃の厚みを見せつけた。GK①富岡の好セーブも光り、守備から攻撃へとつなぐリズムが確立されたことが大きい。大垣東も⑤川合がフリースローを沈めるなど食らいつつは、相手守備陣を完全に崩すには至らず、前半を終えてスコアは6－3と前橋商業が優勢に立った。

しかし第3ピリオドに入ると、試合は大きく動いた。大垣東は⑤川合を中心に反撃を開始。ミドルシュートや退水を絡めた得点で流れを呼び込み、さらに⑧浅井や⑫野村が次々に決めていく。GK①高橋の好守も加わり、一気に6得点を奪取。守備では前橋商業の要である⑥前田を徹底マークで封じ、攻撃の形を崩すことに成功した。前橋商業も⑦星や③深澤が意地を見せたが、このピリオドは2－6と大垣東が圧倒。試合は9－8と大垣東が逆転して最終ピリオドに突入した。

第4ピリオドは、手に汗握る攻防の連続となった。開始早々、大垣東は⑧浅井や⑫野村の得点で再びリードを広げ、3点差をつける。流れを失いかけた前橋商業はタイムアウトを取り、態勢を立て直した。そこから主将④齋藤がフリースローを沈めると、⑤椎名、⑥前田が畳みかけるようにゴールを決め、一気に点差を縮めた。残り時間が少なくなる中で④齋藤がミドルシュートを突き刺し、勝負は振り出しへ。最後まで攻防が交錯し、大垣東もタイムアウトを駆使して活路を探したが、勝利を手繰り寄せたのは前橋商業だった。最終的に12－11で接戦を制し、全国の舞台で価値ある白星を挙げた。

試合を通して、前橋商業は主将④齋藤の豊富な経験とゲームメイク、⑥前田のフィジカルを活かしたポストプレー、⑦星や⑤椎名の決定力など、多彩な攻撃パターンを展開したことが勝因となった。GK①富岡の好守備もチームを支え、守備からの速攻でリズムを作った点も大きい。

一方、惜敗した大垣東も粘り強い戦いで観客を魅了した。⑤川合の冷静な試合運びと確実な得点、⑧浅井の右サイドからの鋭いシュート、⑫野村の左利きを活かした突破は、相手守備を幾度も揺さぶった。第3ピリオドでの逆転劇は、チーム全体の団結力と勝利への執念を体現した場面であり、大会屈指の名勝負を演出したといえる。

結果は僅差で前橋商業が勝利を収めたが、両校ともに高い戦術理解と集中力を発揮し、最後まで勝負の行方が分からない白熱の試合となった。この一戦は、勝者の力強さと敗者の健闘が鮮やかに刻まれた、全国大会ならではの名勝負として記憶されるだろう。

記 録 者

伊藤・加藤・菅原